

地域イノベーション戦略支援プログラム
(研究機能・産業集積高度化地域)

【和歌山県特産農産物を活用した健康産業イノベーション推進地域】

平成 24 年度年度報告書概略版

平成25年4月

事業実施状況

(1) 目標の達成状況

<数値目標>

年度計画書における目標設定		今年度の実績	備考
指標	数値		
特許出願件数	2件	0件	なお、梅酢ポリフェノールの製造にかかわる特願 2008-038748 の審査対応をし、特許査定となった(平成25年4月6日)。
査読論文数	2件	0件	Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry に1報掲載決定
参画企業数 (コンソーシアム 件数)	20社 (1件)	14社 (1件)	農産物有用化合物活用研究会に参画 新規なコンソーシアムとして「八升豆活用コン ソーシアム」が発足
提案公募等応 募案件 (内採択件数)	5件以上 (3件)	8件 (8件)	基礎研究:4件、実用化研究:3件 コホート研究:1件

<総評>

実施体制構築に関して、地域産業、市場等のニーズを大学での研究課題に反映させるため、プロジェクトディレクター、医農連携コーディネータ及び地域連携コーディネータを配置し、事業実施体制を構築した。

将来の健康機能食品の製品化に必要な医学的効能に関するエビデンス整備に向けて、招聘研究員と地域研究員の研究進捗管理を行う「研究テーマ進捗会議」を設け、研究員の活動内容の把握とプロジェクトの方向性など協議した。また事業推進させる「事業推進委員会」を開催し、関連産業界や地域で活動されている方々から有意義な意見を聴取しプロジェクト推進の参考にさせて頂いた。また高付加価値化を目指す商品化・事業化を目指す「農産物有用化合物活用研究会」を発足させ活動を開始した。特に果樹加工により新規な機能性を生み出すことで製品化を行うことを特徴として実行させた。さらには、外部有識者から事業活動に対する評価を受ける「外部評価委員会」を開催し、地域戦略、事業概要に関する意見を聴取し、その対策を含めた外部評価開催概要を近く総合調整機関HPに掲載することを予定している。

事業活動としては、梅酢ポリフェノールの事業化を推進させるための供給体制を構築し、実用化支援を確立するとともに製品化が望める企業に対し、試料提供する体制を構築した。八升豆に関しては、関連企業、大学等研究員からなるネットワークを構築し、今後の開発方針など協議し、次年度以降の提案活動につなげる準備を行った。これ以外の研究課題提案として、梅の新品種である「露茜」の赤色成分を活かした製品開発を始動させ、国(農林水産省)の提案公募にも採択と研究活動を実行した。

地域住民の健康力を向上させる「人材育成プログラム」の開発については、プログラム開発とその実行をどのように進めるかについて検討し、次年度の具体的な活動内容と方向性を見いだすべく検討会を組織し、次年度中に活動フレームの構築を目指している。

以上、本事業によりイノベーションを進めるための必要な項目からなるプラットフォームを形成した。これにより次年度以降に個々のレベルアップにより予定した成果を目指すことが可能となった。

(2) 全体計画実施状況

○研究開発テーマ

地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積

①健康長寿を指向した和歌山県特産果実由来の消化管機能改善成分の探索と機能解明

(近畿大学生物理工学部 教授 芦田 久)

②和歌山県の特産果実に含まれる二次代謝産物の利用技術の開発

(近畿大学生物理工学部 教授 尾崎嘉彦)

③和歌山県特産農産物からの「ヒトの免疫作用に効果を及ぼす食品由来の機能性物質」の探索

(近畿大学生物理工学部 講師 永井宏平)

④植物由来保健機能成分による脂質代謝改善、糖尿病予防に関する研究

(和歌山県立医科大学第1内科学 特別研究員 竹島 健)

地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施

① 健康寿命イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び養成

(和歌山大学教育学部 特任助手 木場田昌宜)

② 健康寿命イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び養成

(和歌山県立医科大学 健看護学部講師 岡 檀)

○資金支出実績

【予算概要表】

(千円)

年度		補助金	地域資金
平成24年度	当初計画額	75,068	82,973
	決算額	67,338	111,191

【補助金概要表】

(千円)

	平成24年度当初計画額	平成24年度決算額
研究者集積	33,676	33,657
近畿大学	26,999	27,000
和歌山県立医科大学	6,677	6,657
人材育成	16,424	13,528
和歌山大学	5,213	5,213
和歌山県立医科大学	11,211	8,315
知のネットワーク構築	24,968	20,153
合計	75,068	67,338

【取組結果概要】

i) 国補助金による実施内容

a) 地域の戦略の中核を担う研究者の集積(近畿大学、和歌山県立医科大学)

和歌山県特産果実由来の機能性解明について、都市エリア産学官連携促進事業から継承した梅酢ポリフェノールの構成成分(特に糖成分)、および生体内動態を調べた。代謝ゲージを用いたラット試験で、投与した梅酢ポリフェノールの約30%が吸収利用されていること明らかになった。他のポリフェノール素材に対して、優位な情報が得られている。生活習慣病に関わるさまざまな試験系の確立が進められ、脂質代謝(脂肪細胞分化に及ぼす作用)、抗炎症作用(マクロファージ活性化)、消化管微生物などに対する作用、免疫に関するオートファジー作用などの評価系が確立され、梅酢ポリフェノールの評価が進められている。

b) 地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施

(和歌山県立医科大学、和歌山大学)

和歌山県立医科大学

医学的に効果が検証されている食品成分を活用したメニューを考案するため、コホート研究を県北部のかつらぎ町、県南部のみなべ町において実施し、約1,000人の住民の詳細な健康状態と食を中心とした生活習慣を把握し統計的な解析を行った。

和歌山大学

【食と運動を融合させた高齢者に特異的で有効性の高い「ハイパワー高齢者自立支援プログラム」の開発】

運動と運動後の食事摂取のタイミングおよび栄養バランスの重要性について検討を行った。特に県内企業で開発された機能食品等を用いてトレーニング効果に及ぼす影響についての比較研究、超高齢者に対する運動と食事のタイミングに関する研究、食と運動に関する意識調査を実施した。その結果、高齢者の健康度や体力は食事と運動のコンビネーションが重要であり、健康維持・増進に効果的であることが示唆された。それらのエビデンスや既存のデータに基づき高齢者のための「ハイパワー高齢者自立支援プログラム」の開発を行った。またプログラムの普及を担う専門性の高いインストラクターを養成し、さらに地域で実践的に活動する高齢者のリーダー（「セカンドインストラクター」）を育成するための指導者用運動マニュアルを完成させた。平成 25 年度は、指導者用運動マニュアルを活用した指導者の人材育成を行う。

c) 大学等の知のネットワーク構築（公益財団法人わかやま産業振興財団）

医農連携コーディネータ及び地域連携コーディネータを配置した。事業戦略会議を受けて農産物有用化合物研究会を立ち上げ、平成 25 年 1 月 30 日に第一回研究会を開催した。また、健康寿命イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び養成のためには、現場視点の部門横断的な連携体制が必要であり、民、学、官の「実務連携会議」を立ち上げた。事業推進委員会・年度報告会、外部評価委員会等の実施及び国際技術動向調査ユニットにおける事業の情報収集を行った。

ii) 地域資金による実施内容

a) 先駆的産業技術研究開発支援事業（和歌山県）

和歌山県産業技術基本計画に基づき、新技術の創出と実用化を図るため県内企業等が取り組む研究開発に支援を行っている。その一つとして、フェルラ酸製造において副生するフィトステロール（PS）とトリテルペンアルコール（TA）の有効利用に関する研究というテーマに対し、助成を行った。

b) 産学官研究推進事業（公益財団法人わかやま産業振興財団）

新事業の創出に取り組む県内中小企業者と大学、高専、公設試験研究機関等の研究コンソーシアムが行うネットワーク構築事業及び事業化可能性調査事業に対する補助を行った。

c) 新連携共同研究事業

新事業創出を目指す中小企業者等の技術と、大学、高専、公設試験研究機関との先端技術を連携した共同研究テーマに対しての共同研究の委託・事業化の支援を行った。

d) 新産業育成事業

中小企業者が、新製品・新技術・新役務の研究開発及び試作等を行う事業に対し、経費の一部を補助した。

e) 専門技術研修会

県内の様々な産業分野における専門技術の動向、専門知識等の普及と参加企業相互の情報交換を図るため、公設試験研究機関、大学等の研究員が主宰する研究会の運営に係る活動経費の一部を助成した。

f) わかやま中小企業元気ファンド事業

中小企業者等の育成と地域産業の振興を図るため、本県の特徴ある地域資源を活用した新商品・新サービスの開発、中小企業者と大学・高専・公設試験研究機関との共同研究で生まれた成果の事業化（新製品開発等）などを支援した。

g) わかやま農商工連携ファンド事業

農林漁業者と中小企業者が連携し、それぞれの経営資源を有効に活用して行う新商品・新サービスの開発、販路開拓などの事業活動に対して支援した。

h) 新技術育成のための情報活用支援事業

先行技術等を調査するために、STN、NRIサイバーパテントシステム、Gサーチ等の商用データベース利用環境を整備し、情報面から支援した。

i) 機能性医薬食品探索講座（和歌山県立医科大学）

保健機能食品開発に取り組む地域企業からの寄附金による研究開発を行った。

j) 紀州田辺うめ振興協議会研究費

和歌山信愛女子短期大学小山先生とともに梅酢ポリフェノールの抗ウイルス作用の研究を実施した。

(3) 今後の課題

活動報告でも記載したが、平成 24 年度は、事業推進にむけたプラットフォーム構築に時間を割いた。今後は、このプラットフォームを活かした取組を実施することになる。

製品化については、限られた資源を有効に活用する目的で、実用化させる研究成果について、それぞれのロードマップを作成、課題の見直しを行い、プロジェクトで実行する課題とプロジェクト外で実行する課題とに区別して進める。

特に、招聘研究員の活動内容と達成目標、目標の活用などの整理を実施したい。また地域研究員が主に行う実用化研究や活動によりどのような開発製品がいつまでにどの程度達成可能かどうかについて目標設定を行い実行する。

その実行の中心的な「農産物有用化合物活用研究会」では、実用化が期待される研究課題の推進させる研究部会を構築する。その研究部会からの提案課題を中心に国、県等提案公募型予算の獲得を目指す。

人材育成プログラムに実行に関しては、実行するモデル地区を選定し、コホート研究活動と並行させて推進する。また育成した人材の活用や継続的な推進状況を地域に根ざすためのシステムの構築を今年度中に策定することを目指す。新たに設置する医学 CD が他の CD と連携してその役割を担う。

また今年度から毎年1回、健康食品関連のシンポジウムを開催し、県内外からこの分野の研究者、企業にて製品化を担っている技術者、さらには国等で制度、試験に関わっている方々を招待し、講演して頂くことにより、和歌山でも健康食品に関する活動を実施しているとの県民への PR とこれらの研究者、技術者に対して、県産果樹を用いて何か新たなアプローチをして頂くPRを実施することを計画している。

【別添資料1】

実績一覧表

1. 地域イノベーション戦略の推進に向けた活動状況

項 目	件 数
(1) 本事業のマネジメント従事者数 ○中核機関 (うち、専任)	3人 (2人)
(2) 研究開発に参加する大学・公的機関の機関数 (うち、海外機関)	8機関 (0機関)
研究開発に参加する大学・公的機関の研究者数 (うち、外国人研究者数)	28人 (0人)
(3) 研究開発に参加する企業数 (うち、本社が海外にある企業)	12社 (0社)
研究開発に参加する企業の参画研究者数 (うち、海外企業研究者数)	29人 (0人)
上記企業のうち、自社の既存事業以外の新規事業に進出するために参加した企業数 (うち、地域内企業数)	0社 (0社)
(4) 研究開発に関与した学生の数 (うち、高専・短大生) (うち、学部生) (うち、修士課程学生) (うち、博士課程学生) (うち、留学生)	9人 (人) (7人) (2人) (人) (人)
(5) 本事業実施にあたって雇用した人数 ○研究従事者 (うち、専任)	4人 (4人)
○マネジメント従事者等、研究従事者以外の者 (うち、専任)	1人 (1人)
(6) 本事業のために設置された研究会等 (うち、本事業開始後に新たに設置された件数)	2件 (2件)
(7) 研究開発参加機関以外で研究会等に参加している機関	9機関
(8) 当該年度における海外機関との連携数 (MOU・共同研究契約などを締結したものに限る)	0件
備考	

2. 知的財産創出及び経済活動の状況

項 目		件 数	
特許等	(1) 国内特許	出願 (その他、地域資金による事業の成果)	0件 (他0件)
		取得 (その他、地域資金による事業の成果)	0件 (他0件)
	(2) 海外特許	出願 (その他、地域資金による事業の成果)	0件 (他0件)
		取得 (その他、地域資金による事業の成果)	0件 (他0件)
	(3) その他の知的財産権	出願 (その他、地域資金による事業の成果)	0件 (他0件)
		取得 (その他、地域資金による事業の成果)	0件 (他0件)
	(4) ノウハウ (その他、地域資金による事業の成果)		0件 (他0件)
	(5) 特許等の実施許諾 (その他、地域資金による事業の成果)		0件 (他1件)
	(6) 当該事業により生じた試作品 (その他、地域資金による事業の成果)		2件 (他0件)
(7) 当該事業により生じた新商品 (その他、地域資金による事業の成果)		0件 (他0件)	
(8) 当該事業により生じた新事業 (その他、地域資金による事業の成果)		0件 (他0件)	
(9) 当該事業により生じた新企業 (その他、地域資金による事業の成果)		0件 (他0件)	
(10) 本事業の成果による収入(売上、特許等の実施料収入等) (うち、特許による実施料収入)		0円 (0円)	
(その他、地域資金による事業成果から生じた収入)		(他0円)	

3. 本事業に係る成果の外部への発信

項 目		件 数
(1)プレス発表		0件
(2)成果発表会		6回
(3)論文	国内誌	論文数 ※査読済論文
	国際誌	論文数 ※査読済論文
(4)プロシーディング等		0件
(5)学会・会議発表	国内学会・会議 (うち学会)	25件 (9件)
	国際学会・会議 * 国際学会のうち (うち査読有り)	0件 (件)
	(うち招待講演)	(件)
	(うち口頭発表)	(件)
(6)国際的なシンポジウム等の開催件数		0件
国際的なシンポジウム等への参画件数		0件
備考		

4. 本事業がもたらした効果など

項 目		件 数
掲載／放送 (地域の採択に係るものは除く)	(1)新聞	0件
	(2)テレビ	0件
	(3)雑誌	0件
(4)受賞		0件
(5)成果が他事業に採択		0件
(6)外部団体の来訪 (文部科学省 産業連携・地域 支援課を除く)	国内団体	のべ2件
	海外団体	のべ0件
備考		

5. 事業参加者等の参加後の動き等

項 目	件 数
(1)事業に関与した学生の卒業後進路(進学は含まない) <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内の大学、公的機関 ・ 地域外の大学、公的機関 ・ 地域内の企業 ・ 地域外の企業 ・ その他 	0人 0人 2人 1人 0人
(2)事業に参加した雇用研究員の事業従事期間終了後の進路 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内の大学、公的機関 ・ 地域外の大学、公的機関 ・ 地域内の企業 ・ 地域外の企業 ・ その他 	0人 0人 0人 0人 0人
(3)事業から脱退した参画大学、公的機関の数 【理由】 1 参加目的達成のため 2 参加目的達成困難のため 3 その他	0機関 機関 機関 機関
事業から脱退した参画企業数 【理由】 1 参加目的達成のため 2 参加目的達成困難のため 3 その他	0社 社 社 社
備考	

1. 知的財産創出及び経済活動の状況

(1) 国内特許

該当なし

(2) 海外特許

該当なし

(3) その他の知的財産権

該当なし

(4) ノウハウ

該当なし

(5) 特許等の実施許諾

No.1 発明の名称:ポリフェノール抽出物の製造方法、骨粗鬆症予防剤、糖質消化酵素阻害剤、これらを用いた機能性組成物、およびこの機能性組成物を含む、食品組成物、特定保健用食品組成物、医薬部品外品組成物、医薬組成物

○出願日:平成20年2月20日、取得日:平成25年4月8日

○発明者名(寄与率):三谷隆彦 他10名

○出願人(持ち分):近畿大学(45/100)

和歌山県(45/100)

和歌山県農産物加工研究所(10/100)

○許諾の相手方:株式会社サンアクティス

○収入:実施料の5%

○備考:

(6) 当該事業により生じた試作品

No.1. 試作品の名称:梅酢ポリフェノール

○具体的内容:梅酢ポリフェノールの和歌山県内での原体供給体制を確立するために、県内企業で試作を行った。その結果、県内企業で梅酢ポリフェノールの生産ができる目処を得た。

○ターゲット市場及びその規模:未定であるが梅酢ポリフェノールを用いた商品開発を種々行っている。

○製造者:株式会社サンアクティス

○元になった研究開発:地域イノベーション戦略支援プログラム(都市エリア型)

○当該研究開発を行った者:三谷隆彦(医農連携コーディネータ) 他

○備考

No.2. 新商品の名称:梅酢ポリフェノール 200 mg含有ハードカプセル

○具体的内容:2号ゼラチンハードカプセルに賦形剤を混和した梅酢ポリフェノール凍結乾燥粉末原体を入れ、約2万カプセルを製造した。

○ターゲット市場及びその規模:梅酢ポリフェノールのサプリメント開発が目的。市場規模は未定であるが、提携先を模索中

○製造者:株式会社京都栄養化学研究所

○元になった研究開発:特願2008-038748・・・平成25年4月8日特許査定

○当該研究開発を行った者:三谷隆彦(医農連携コーディネータ)

○備考

(7) 当該事業により生じた新商品
該当なし

(8) 当該事業により生じた新事業
該当なし

(9) 当該事業により生じた新企業
該当なし

(10) 本事業の成果による収入(売上、特許等の実施料収入等を備考に記載)
該当なし

2. 本事業に係る成果の外部への発信

(1) プレス発表

該当なし

(2) 成果発表会

No1.発表会名:キック・オフ・セミナー

- 開催日:平成24年10月24日
- 内容:事業概要説明
- 開催場所:和歌山県和歌山市内ホテル アバローム紀の国
- 参加人数:167人
- 備考

No2.発表会名:わかやま食と健康フェア2012

- 開催日:平成24年10月28日
- 内容:地域イノベーション戦略支援プログラム事業に関するパネル出展
- 開催場所:和歌山県和歌山市内 パームシティ
- 備考

No3.発表会名:わかやまテクノ・ビジネスフェア

- 開催日:平成24年11月13日
- 内容:事業概要説明
- 開催場所:和歌山県和歌山市内ホテル アバローム紀の国
- 参加人数:177人
- 備考

No4.発表会名:ライフイノベーション研究成果企業化促進フォーラム

- 開催日:平成24年12月21日
- 内容:地域イノベーション戦略支援プログラム事業に関するパネル出展
- 開催場所:大阪府大阪市 マイドーム大阪
- 備考

No5.発表会名:関西経済活性化シンポジウム

- 開催日:平成25年1月18日
- 内容:地域イノベーション戦略支援プログラム事業に関するパネル出展
- 開催場所:大阪府大阪市 マイドーム大阪
- 備考

No6.発表会名:平成24年度年度報告会

- 開催日:平成25年3月15日
- 内容:平成24年度の地域イノベーション戦略支援プログラム事業の成果を発表
- 開催場所:和歌山県和歌山市内ホテル ダイワロイネット
- 参加人数:103人
- 備考

(3) 論文

該当なし

(4) プロシーディング等

該当なし

(5) 学会・会議発表

No1. 発表テーマ: 和歌山県特産農産物を活用した健康産業イノベーション

○国内

○会議名: 和歌山県・近畿大学 包括的連携協定締結セミナー

○発表日: 平成 24 年 12 月 21 日

○発表者名: 芦田久

No2. 発表テーマ: 植物性多糖に作用する *Bifidobacterium longum* 由来の酵素の解析

○国内

○学会名: 平成 25 年度日本農芸化学会大会

○発表日: 平成 25 年 3 月 26 日

○発表者名: 芦田久, 北村有里奈, 竹内涼子

No3. 発表テーマ: ウメ(*Prunus mume* S.) の抗疲労作用に関する研究

○国内

○学会名: 栄養食糧学会

○発表日: 平成 24 年 5 月 18 日

○発表者名: 矢野史子(1), 荒木章吾(1), 藤田勝也(1), 白木琢磨(1), 岸田邦博(1), 高田善浩(2), 青柳正信(2), 高橋齊(2), 山西妃早子, 福西伸一(3), 三谷隆彦(1) (1)近大生物理工, (2)サッポロ飲料, (3)プラム食品

No4. 発表テーマ: 梅酢ポリフェノールの降圧作用に関する研究(第 3 報)

○国内

○学会名: 栄養食糧学会

○発表日: 平成 24 年 5 月 18 日

○発表者名: 部屋雄一(1), 和木田直希(1), 山崎晋平(1), 田中あゆみ(1), 岸田邦博(1), 岸岡史郎(2), 堀西朝子(1), 山西妃早子, 矢野史子(1), 三谷隆彦(1) (1)近畿大・生物理工, (2)和医大・薬理

No5. 発表テーマ: 梅酢ポリフェノールの生体内動態に関する研究(第 2 報)

○国内

○学会名: 栄養食糧学会

○発表日: 平成 24 年 5 月 18 日

○発表者名: 田中あゆみ(1), 岸田邦博(1), 堀西朝子(1), 矢野史子(1), 山西妃早子, 赤木知裕, 三谷隆彦(1) (1)近畿大・生物理工

No6. 発表テーマ: 梅酢ポリフェノールの降圧作用に関する研究(第 2 報)

○国内

○学会名: 栄養食糧学会

○発表日: 平成 24 年 5 月 18 日

○発表者名: 山崎晋平(1), 和木田直希(1), 部屋雄一(1), 岸田邦博(1), 岸岡史郎(2), 堀西朝子(1), 山西妃早子, 矢野史子(1), 三谷隆彦(1) (1)近畿大・生物理工, (2)和医大・薬理

No7.発表テーマ:カキ果実に含まれるキチナーゼの同定と精製

○国内

○学会名:第12回食品酵素化学研究会

○発表日:平成24年8月25日

○発表者名:國井 沙織(1), 片桐 実菜, 尾崎 嘉彦(1), 森本 康一(1)
(1)近畿大学・生物理工学部

No8.発表テーマ:梅の赤色色素に関する研究

○国内

○学会名:産技連 バイオテクノロジー分科会

○発表日:平成25年2月5日

○発表者名:赤木 知裕, 根来 圭一, 大崎 秀介, 三宅 英伸

No9.発表テーマ:和歌山県工業技術センター食品産業部活動報告

○国内

○会議名:産業技術連携推進会議

近畿地域部会「食品・バイオ分科会」2012年度総会

○発表日:平成24年10月2日

○発表者名:藤原真紀

No10.発表テーマ:クエン酸発酵による新しい柿果実飲料の開発

○国内

○会議名:わかやまテクノ・ビジネスフェア

○発表日:平成24年11月13日

○発表者名:藤原真紀

No11.発表テーマ:クエン酸発酵による新しい柿果実飲料の開発

○国内

○会議名:LS-BT 合同研究発表会

○発表日:平成25年2月5日

○発表者名:藤原 真紀, 阪井 幸宏, 池本 重明(1), 福本 憲治, 矢野 史子(2),
三谷 隆彦(3) (1)発明協会, (2)近畿大学, (3)わかやま産業振興財団

No12.発表テーマ:和歌山県産カンキツ類の香気成分分析

○国内

○会議名:LS-BT 合同研究発表会

○発表日:平成25年2月5日

○発表者名:古田貴裕, 細田朝夫, 片桐実菜, 有田慎, 福本憲治, 中地克之(1),
山田芳裕(1), 宮本久美(1) (1)和歌山県果樹試験場

No13.発表テーマ:長野県市田柿加工の現状について

○国内

○会議名:第2回柿加工研修会

○発表日:平成25年3月6日

○発表者名:三谷隆彦(1) (1)わかやま産業振興財団

No14.発表テーマ:ウメ‘橙高’の黄色着色向上と梅酒の色保持について

- 国内
- 会議名:果実酒・果実飲料と健康に関する研究会
- 発表日:平成 25 年 3 月 9 日
- 発表者名:根来 圭一, 大江 孝明(1), 有田 慎 (1)果樹試験場うめ研究所

No15.発表テーマ:薬物治療を要しない高血圧患者における梅酢ポリフェノールの降圧作用

- 国内
- 会議名:果実酒・果実飲料と健康に関する研究会
- 発表日:平成 25 年 3 月 9 日
- 発表者名:竹村重輝(1) (1)和歌山県立医科大学

No16.発表テーマ:地域イノベーション戦略支援プログラムにおける
和歌山県立医科大学の役割

- 国内
- 会議名:和歌山産業財団意見交換会
- 発表日:平成 24 年 10 月 4 日
- 発表者名:岡檀

No17.発表テーマ:和歌山県立医科大学が行う地域イノベーション戦略支援プログラムの概要

- 国内
- 会議名:呉市日下医院意見交換会
- 発表日:平成 24 年 10 月 11 日
- 発表者名:岡檀

No18.発表テーマ:和歌山県の地域特性をふまえた疾病予防の試み

- 国内
- 学会名:第 9 回果実酒・果実飲料と健康に関する研究会
- 発表日:平成 24 年 10 月 13 日
- 発表者名:岡檀

No19.発表テーマ:「旧」市区町村にこだわる理由～地域診断をめぐる一考察～

- 国内
- 講演名:地域イノベーション戦略支援プログラム平成 24 年第 1 回交流会
- 発表日:平成 25 年 1 月 30 日
- 発表者名:岡檀

No20.発表テーマ:健康づくりを考えよう!～健診を 200%活用する方法について～

- 国内
- 講演名:日高町北出病院意見交換会
- 発表日:平成 25 年 2 月 22 日
- 発表者名:有田幹雄

No21.発表テーマ:市町村の地勢が自殺率にもたらす影響

- 国内
- 学会名:国際ワークショップ:社会のイノベーションを誘発する情報システム
- 発表日:平成 25 年 2 月 26 日

○発表者名:岡檀

No22.発表テーマ:健康診断受診のメリット

○国内

○講演名:上富田町婦人振興大会

○発表日:平成 25 年 3 月 3 日

○発表者名:岡檀

No23.発表テーマ:和歌山県立医科大学が行う「食による元気社会推進プログラム(仮称)」
の骨子

○国内

○会議名:元気シニア社会創出 第 1 回実務連携会議

○発表日:平成 25 年 3 月 13 日

○発表者名:岡檀

No24.発表テーマ:和歌山県立医科大学が行う地域イノベーション戦略支援プログラムの概要

○国内

○会議名:花王株式会社ヘルスケア研究所意見交換会

○発表日:平成 25 年 3 月 18 日

○発表者名:岡檀

No25.発表テーマ:和歌山「元気シニア社会」創出に携わる人材育成
第 1 ステップ: 実態把握と地域診断

○国内

○会議名:元気シニア社会創出 第 2 回実務連携会議

○発表日:平成 25 年 3 月 27 日

○発表者名:岡檀

3. 本事業がもたらした効果など

(1) 新聞

該当なし

(2) 放送

該当なし

(3) 雑誌

該当なし

(4) 受賞

該当なし

(5) 成果が他事業に採択

該当なし

(6) 外部団体の来訪

No1. 来訪団体：長崎県 産業技術課

○来訪年月日：平成 24 年 10 月 24 日

○来訪者及び来訪者数：職員 1 名

○備考：

No2. 来訪団体：国立大学法人 宇都宮大学

○来訪年月日：平成 24 年 11 月 9 日

○来訪者及び来訪者数：地域共生研究開発コーディネーター 他関係者 3 名

○備考：